



新しい時代に対応した 医療の確立を目指して

市立総合病院の理念とリニューアル

市立総合病院は、県北部における地域の基幹・中核病院として2次医療（入院患者など重症患者への医療）を中心に幅広く市民・地域住民の医療を行ってきました。

21世紀を迎え、少子高齢化、医療の高度化・専門化など病院を取り巻く環境は大きく変わり、質の高い医療の提供と患者アメニティ（快適さ）の向上は不可欠になっています。このため、老朽化した病院施設リニューアルの具体化を進め、医療の原点である“患者さん中心”の理念と基本方針も制定しました。

「新しい市立総合病院」への動きはすでに始まっています。

その現状

市立総合病院の歴史は古く、明治12年川瀬玄探氏などが創立した私立大館病院に始まります。その後120年余りにわたり、常に県北部の中心医療機関としてその役割を果たしてきました。

現在、診療科数は19科、病床数は497床。ライナック（放射線治療装置）、MRI（磁気共鳴診断撮影装置）、DSA（血管撮影装置）などの高度医療機器の整備を進め、未熟児医療、リハビリテーション、がん治療、人工透析などの高度医療も行っていきます。また、救急告示病院・災害拠点病院・エイズ治療拠点病院・精神科救急地域拠点病院などにも指定されています。

医療スタッフは、医師45人、看